

Q1 コミュニティバスの運行について

現状とその効果は？

問 「コミュニティバス802」は、町民の方々の足の確保とニーズに対応出来るようにと運行経路とダイヤ、運賃が見直しされました。また、「スクールバス」は、児童・生徒の登下校時や部活動として学校行事等に対応が出来るようにと、昨年10月から分離して運行されています。

分離運行されてから約一年が経過しようとしています。が、「スクールバス」について、運行の現状と分離運行による効果があったのか。また、「コミュニティバス802」については、運行に係る収支と利用率は向上したのか。利便性は高まったのか。そして、利用者の要望等があるのか伺いたい。

答 (堀部教育長) 現在、スクールバスは6台、6コースで運行しています。利用している児童生徒は、八百津小学校11名、久田見小学校15名、潮見小学校10名、八百津中学校11名、東部中学校13名で例外的に八百津保育園4名の送迎にも活用しています。スクールバスの運行効果を一言で言えば、小

回りが効くようになったということです。平成26年9月までは、学校行事等での早い下校や、長期休業中のプール・部活動などがある場合、町バスを基本に対応しており、対応しきれない場合は、コミュニティバスを臨時に運行しなければならず、急な変更に対応できないなどの課題がありました。

しかしながら、スクールバスをコミュニティバスから分離したことで、より一層の充実が図れるようになりました。学校の行事等で午前中に授業が終

わる場合や積雪など気象条件で町教育委員会の判断で運行時間を変更する場合があります。その時、状況に素早く柔軟に対応できるようにになりました。

土日等の休日、中学校では部活の大会や練習、参観日や教育講演会などがあり、タイムリーに対応できるようにしました。部活動の大会は、早い時間に集合しなければならぬときがありますが、時間にあわせた運行もできるようにしました。

校外学習の日にちを決定する場合、町のバスとスクールバスを併用し、できるだけ学校が第一希望とする日に運行させる配慮ができるようになりました。また、スクールバス活用の申請時には停留所の位置などの要望についてでもできるだけ応えており、

今後八百津町の子どもたちが、安心して乗ることが出来る安全なスクールバス運行に心がけていくつもりです。

答 (藤本産業課長)

利用状況としましては、利用者は見込みですが、1年間で9800人、1日平均40人となり、路線変更前の年間平均の一般利用者は3866人でしたので、2.5倍の増となっております。

運行収入については270万円となる見込みで、路線変更の一般利用者の平均収入は、160万円でしたので、約110万円の増となる予定です。料金を一律200円に減額にしたにもかかわらず、これだけの増額となりました。

路線の時刻表を改めて見てみますと、どの路線も4往復が確保され、各交通機関への連絡時刻にも配慮されており。また、八百津や川辺町での買い物や通院など、2時間前後の時間がとれることから、用事を済ませるのに最適な時間が設定されていると思います。

実際の利用者の皆さんからもお話を伺いましたところ、時刻表が大変分かりやすくなって安心。200円の運賃は本当にありがたい。高校生の財布にも優しい。フリー乗降は、重い荷物を持つ買い物に本当に便利など好評をいただいている半面、もう少し本数があればとのご要望もありました。

バスの運転手からの聞き取りでは、買い物や通院、補聴器の相談会などで利用されるお客さんが増えた。東部地区の八百津高校の生徒が毎日利用している。他校の生徒でも夏休みや試験期間中、バスを利用して下校する生徒が増えてきた。

中川辺駅で高山線に乗りかえる利用は未だ少ない。大変良い路線なので、もっと利用していただきたいなど伺っています。利用の促進につきましては、

昨年度、コミュニティバスを利用し、「元氣！長寿学校」を開催、大変好評でした。このバスを使って、八百津だけでなく、川辺町や美濃加茂市へも行けることを知っていただきました。

この時代、バスに乗るという習慣を作ることは大変なことです。心と体の健康作りも兼ねて、自家用車に乗れなくなる前から、数回のうち一回はバスを利用し、バスに乗るという習慣を身につけていただけよう、また、地域の路線をみんなで守っていこうという意識作りのため、PRを行っていききたいと考えております。

今後については、しばらくの間、現在の路線を基本に続けていく予定です。路線変更により、路線が無くなった地域の皆様につきましては、大変不都合をお掛けしておりますが、利用の要望が高まれば、検討も必要だと

考えています。また、平成29年4月からはやおつトンネルの開通もあります。開通により、新しい運行形態の見直しが必要になってくることもあり得ますので、今後も八百津町の公共交通のあり方について、研究・検討していききたいと考えております。



Q2 町長の出処進退について

次期町長選に出馬か否か？

問 赤塚町長は、平成8年1月の当選以来、19年8ヶ月に

わたり町政の舵取りを担って来られました。その間、平成16年の美濃加茂市・加茂郡合併協議会の解散や平成22・23年と続いた豪雨災害など、八百津町にとっても町民にとっても大変困難な時もありましたが、卓越した行政手腕を発揮され難局を乗り越えられ今日に至っています。

そして、福祉、子育て、教育、防災、農林商工業、建設などすべての分野において、調和とバランスのとれた施策を実行され